

春耕山寺吟行句会

平成十七年六月十九日(日)

皆川盤水先生第十「さくらんぼ句碑」除幕式に参列した翌日、有志で東根市内サクランボ園、大櫓と山寺(立石寺)の吟行を行った。

梅雨時にも拘わらず晴天の出羽地方を楽しむことが出来た。

時期はサクランボの最盛期で、至る所にサクランボの赤いつぶらな実が顔を覗かせてくれる良き時節であった。

宿は東根温泉のホテル「花の湯」。

ここからタクシーで5分ほどにある東根小学校の校庭にそびえる、国指定特別天然記念物の大ケヤキを見物。樹高二十四m、幹周りは十六mの大きさである。この櫓は古くは南北朝時代の千三百年半ば頃小田島長義が築いた東根城内に植栽されたと言われ樹齢千五百年を超えるそうだ。

大きな注連縄はこの櫓が横綱級の立派さであるので横綱にふさわしい注連縄をということで毎年

奉納されている。



東根小学校校庭にある大櫓。樹齢千五百年。

サクランボ果樹園の前でタクシーを停めて摘み取りの様子を見てみるとネットの中に入って見物しても良いと言葉をかけられたので目近かに摘み取りの様子を見ることが出来た。一粒一粒宝石を摘むように取るさまを見るとサクランボ農家の大変さを感じる。これからは大切に味わって食べることにしよう。



山形新幹線の止まる「さくらんぼ東根駅」はまあまあ立派な駅であるが、次のＪＲ東根駅は無人駅である。タクシーをここで乗り捨てて奥羽線の山形行きを待つ。ホームから左手より朝日岳、月山、葉山が見えるが夏霞と薄い雲に遮られて全容は見えないのが残念である。

電車が着いてドアを自分の手で開けるところがローカル線の楽しいところ。列車は山形駅へ向けて出発。

乱川（みだれがわ）駅とか高掬（たかたま）駅



東根駅 西側。目の前はサクランボ畑



東根駅に電車が入ってくる

など珍しい駅名に気を取られている打ちに山形駅に到着。仙山線に乗り換えて山寺に向かう。

出羽愉し目路の限りのさくらんぼ
椋鳥のむくむく太るさくらんぼ

良雨 良雨



正午近くに山寺駅に着く。荷物を駅のコインロッカーに預けて山寺を目指す。背広はロツカーに仕舞ってきたが長袖のシャツでも暑いほど。汗を拭きふき千百段余りの石段を登る。
山門を入ったばかりの休み茶屋で早速休むものもいれば奥の院を目指してずんずん登ってゆく元気な者もいる。



蟬塚の踊り場。力こんにやくを食べて奥の院を目指す。

石段の周りを草取りをする婦人の姿も見られる。
山寺の磴千段の草を引く 良雨
さくらんぼのトップシーズンにかち合っている日曜日であるが、子供連れも含めて大勢の参詣人で賑わっている。
円仁が開いた山寺と伝えられているが、魅力がいつの時代にもあることなのである。



山寺からの眺望。岩上に納経堂。その右が開山堂。



慈覚大師開山堂前で。



修業のための洞窟



五大堂は風の通り道



奥の院

開山堂および五大堂は風がよく通るところ。涼風を求めて休むことしばし。特に五大堂は眼下に立谷川沿いに点在する集落を見ることが出来る。



参道の蕎麦屋で句会



奥山寺参詣を終わり山寺駅から仙台へ向かう

立谷川沿いの街道を芭蕉と曾良は大石田から山寺を目指してはるばるやってきたのであった。

万緑に曾良と翁の影ふたつ
天降り来し大瑠璃のこゑ立石寺
山寺の風に揉まるる夏の蝶

良雨 良雨 良雨

以下は蕎麦屋での句会の結果

棚山 波朗先生

瑠璃鳴いて山気の締まる立石寺

流れなき池に四肢はるあめんぼう

蟬塚にしみ出る水や瑠璃高音

てのひらに光りのつぶのさくらんぼ

池内 けい吾

椋鳥威す空砲ひびくさくらんぼ

3 河骨の白花 掲ぐる浄土池

1 山門に子燕ならぶ立石寺

さくらんぼよべの雨粒こぼしけり

1 瑠璃鳴いて寺の石階いよよ急

臺目 良雨

2 さくらんぼ宝石のごと摘む男

柚口 満

池

1 1 雲の峰育て太古の大櫓
山寺やけふつばめの子巢立ちたる

満

1 1 さくらんぼ光と風に色付けり
山寺の磴を鳴きつく小瑠璃かな

伊藤 伊那男

1 山寺の巖に張りつく鴨足草

1 さくらんぼ摘む指使ひこまやかに

1 ひとしきり夏蝸を立石寺

生江 通子

1 姥堂の草屋根に積む夏落葉

2 青嶺より風のとどきし阿弥陀堂

1 蕉翁の道や青葉の大櫓

武田 禅次

1 神棲まふ櫓を仰ぐ夏帽子

1 風切つて椋鳥の飛び込むさくらんぼ

1 山寺の木魚の調べ夏の萩

池 波

1 神棲まふ櫓を仰ぐ夏帽子

1 風切つて椋鳥の飛び込むさくらんぼ

1 山寺の木魚の調べ夏の萩

生 波池

1 千年の櫓新樹をまぶしめり

2 嶺々分けて峽の青田の風湧けり (五大堂)

2 昨日より今日のくれなゐさくらんぼ

1 瑠璃色の大瑠璃鳥のこゑ立石寺

波

出羽人のやさしさの味さくらんぼ

河野 彩

伊 墓 池	墓 池 墓	柚	生
2 2 1 1 2	1 1 1 1 4 1 3	1 2	1 2
人情の一粒くれしさくらんぼ 松川 洋酔	登り来て茂りの上の立石寺 大撈みして千年の茂りかな 杉阪 大和	さくらんぼけふくつきりと月の山 夏蝶に蹤き一服の腰上げる 小瑠璃鳴き杉谷深き立石寺 飯田 眞理子	父の日の小学校の大櫓 こんにやくの匂ふ参道薄暑かな 沢 ふみ江

墓	伊	生 伊	柚
1	2 1	1	1 1 2
さくらんぼ茂吉の里に雲浮かぶ	片陰のあれば身を寄せ立石寺 夏の蝶ためらひもなく堂ぬける 渡辺 峰山	青葉風子の声とどく大櫓 白雲の湧きたつ背山さくらんぼ 藤野 滯子	みちのくの青嶺を望む五代堂 初夏や階千段の立石寺 さくらんぼ迫り出してゐて鉄路かな 長久 彪
	大櫓ほこらかすめて夏つばめ 山口 石竜子	緑陰の風の豊かや芭蕉句碑 依田 安子	大櫓洞の向うの夏の雲 山下 功
	山紫陽花岩に浮き出す阿弥陀堂	夏嶺越ふ風の青さや五大堂 吉田 百合子	せみ塚や老石に汗落としけり

柚

1 立石寺岩の祠に夏落葉
2 さくらんぼ下げて山寺詣でけり
1 万緑の翳重ねけり立石寺

伊

2 近づきつ見上げる日傘大櫂
1 さくらんぼ摘む足取りの舞ふごとく
花さびた杖の音過ぐ立石寺

1 さくらんぼ佐藤翁の碑に光る
窪田 明
高井 美智子

1 石洞に玩具の並ぶ木下閣

1 青葉風櫂の幹に千の顔
2 さくらんぼ日に向く方の赤強し
島貫 和子

1 さくらんぼ摘む指の節ひしやげをり
松尾 千佳子

生

1 初蟬の岩にひびくや阿弥陀堂
1 東根の城址に千年大櫂
みはるかす出羽の山々五大堂

不明一句

1 著我の花なかに片寄せ後生車

